

平成24年度全国学力・学習状況調査の結果の概要(和歌山県)

1 調査の概要

(1)調査日 平成24年4月17日(火)

(2)調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。また、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

(3)調査内容

①抽出調査を実施した学校・児童生徒

公立小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年【抽出率41.3%】

公立中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年【抽出率75.0%】

	国語A	国語B	算数A・数学A	算数B・数学B	理科
(小6)	学校・児童数 104校3,476人	104校3,476人	104校3,476人	104校3,476人	104校3,476人
(中3)	学校・生徒数 96校6,219人	96校6,226人	96校6,239人	96校6,235人	96校6,252人

②教科に関する調査

- ・主として「知識」に関する問題…[国語A、算数A・数学A]
- ・主として「活用」に関する問題…[国語B、算数B・数学B]
- ・主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題…[理科]

③生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

- ・児童生徒に対する調査
(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)
- ・学校に対する調査
(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

(4)抽出調査における平均正答率の取扱

各都道府県(公立)の教科に関する調査については誤差±1%となるように標本調査が行われているため、±1%程度の誤差を含めた数値の幅により、抽出調査のデータが示されている。全国(公立)及び都道府県(公立)の平均正答率についても、誤差を含めた数値の幅「平均正答率の95%信頼区間」で示されている。

2 教科に関する調査結果

(1)平均正答率の95%信頼区間における和歌山県(公立)と全国(公立)の比較 小学校調査

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
県	79.2 - 80.7	50.9 - 52.9	72.0 - 73.8	55.8 - 57.7	57.2 - 58.9
全国	81.4 - 81.7	55.4 - 55.8	73.1 - 73.5	58.7 - 59.1	60.8 - 61.1

○算数Aについては、全国平均正答率と同程度である。他は全国平均正答率を下回り、特に、国語B、理科については、開きがある。

中学校調査

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科
県	73.9 - 75.2	61.0 - 62.5	62.0 - 63.8	47.4 - 49.7	48.9 - 50.8
全国	75.0 - 75.2	63.2 - 63.4	62.0 - 62.3	49.2 - 49.5	50.9 - 51.1

○数学Aについては、全国平均正答率をやや上回る状況にあり、国語A、数学Bについては、全国平均正答率と同程度である。他は全国平均正答率を若干下回る状況にある。

(2) 無解答率（平成22年度及び平成24年度の県比較）

小学校調査

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
H22無解答率平均(%)	2.3	4.6	2.2	6.5	—
H24無解答率平均(%)	3.4	8.6	2.2	5.6	3.7

中学校調査

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	理科
H22無解答率平均(%)	3.3	8.5	6.6	21.0	—
H24無解答率平均(%)	3.5	5.7	2.8	13.7	10.3

○小学校算数 B、中学校国語 B、数学 A・B については、無解答率は減少し改善傾向にあるが、中学校数学 B については、依然無解答率は高く、中学校理科についてもそれに次ぐ値を示している。

○小学校国語 A・B、中学校国語 A については無解答率は増加し、特に小学校国語 B については 4 ポイント増加している。

3 質問紙調査の結果

(1) 【児童質問紙】（小 6）

ア 問 2 4 「家で、学校の宿題をしていますか」について「している」と回答した児童の割合は、全国と比較して 2.5 ポイント上回り、前回よりも増加し 90% を超える高い値となっている。しかし、問 2 3 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」について「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童の割合は、前回よりも 2 ポイント減少し、全国と比べて約 8 ポイント低い状況である。

単位：%

問 2 4	県	全国	差
H 2 2	89.1	85.4	3.7
H 2 4	90.4	87.9	2.5

単位：%

問 2 3	県	全国	差
H 2 2	52.2	58.3	-6.1
H 2 4	50.2	58.0	-7.8

イ 問 4 9（国語）、問 6 2（算数）、問 7 3（理科）「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」について、「当てはまる」と回答した児童の割合は、国語、算数ともに約 4 ポイント増加し、理科も全国に近い値となっている。

単位：%

		県	全国	差
問 4 9（国語）	H 2 2	48.9	52.6	-3.7
	H 2 4	52.6	55.7	-3.1
問 6 2（算数）	H 2 2	61.8	65.2	-3.4
	H 2 4	66.5	68.4	-1.9
問 7 3（理科）	H 2 2	—	—	—
	H 2 4	41.5	42.8	-1.3

ウ 問 4 4 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか」について、「難しい」「どちらかといえば難しい」と回答した児童の割合は、前回と比較して約 2 ポイント減少しているが、全国との差は広がり、約 5 ポイントである。

単位：%

問 4 4	県	全国	差
H 2 2	68.7	65.4	3.3
H 2 4	66.8	61.6	5.2

(2) 【生徒質問紙】(中3)

ア 問45 「国語の勉強は好きですか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は、前回よりも約5ポイント増加し、全国との差も4ポイント減少した。

単位：%

問45	県	全国	差
H22	46.6	57.2	-10.6
H24	52.0	58.6	-6.6

イ 問55 (国語), 問66 (数学), 問81 (理科) 「解答を文章等で書く問題について、最後まで解答を書こうと努力しましたか」について、「最後まで解答を書こうと努力した」と回答した生徒の割合は、国語は前回から7ポイント以上増加し、数学、理科については全国と同程度となっている。

単位：%

		県	全国	差
問55 (国語)	H22	61.6	65.2	-3.6
	H24	68.9	70.6	-1.7
問66 (数学)	H22	45.5	45.5	0.0
	H24	46.4	45.9	0.5
問81 (理科)	H22	-	-	-
	H24	46.1	46.6	-0.5

ウ 問42 「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思いますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は、前回よりも約6ポイント増加しているが、全国との差は9ポイントあり、依然として課題が見られる。

単位：%

問42	県	全国	差
H22	45.6	55.3	-9.7
H24	51.9	60.9	-9.0

エ 問78 「理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか」について、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合は、全国と比較して10ポイント以上低い状況にある。

単位：%

問78	県	全国	差
H22	-	-	-
H24	46.2	56.5	-10.3

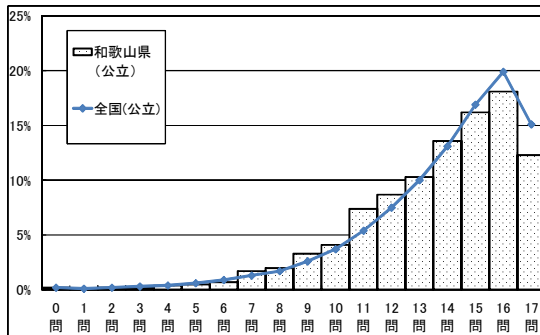
4 教科の概要

◇…相当数の児童・生徒ができている点 ◆…課題のある点
 []内は、問題番号と正答率

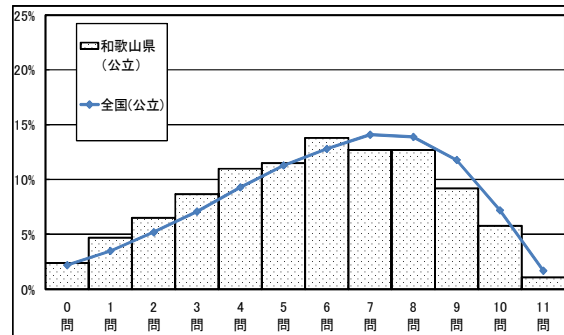
【小学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率(%)は(79.2-80.7)であった。
 ◇学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことについて、相当数の児童ができてい
 ている。[A1] (1) 91.4%, A1] (2) 93.7%, A1] (3) 95.3%]
 ◆目的や意図に応じ、必要となる事柄を整理して簡潔に書くことに課題がある。[A7] 37.8%]
- 国語B（活用）の平均正答率(%)は(50.9-52.9)であった。
 ◇目的に応じ、雑誌や読んだ記事の特徴を捉えることについて、相当数の児童ができてい
 る。[B3]一ア 84.6%]
 ◆手紙の構成を理解し、後付けを書くことに課題がある。[B1]三 23.1%]
 ◆複数の記事を結び付けながら読み、事実を基にして自分の考えをもつことに課題がある。
 [B3]四 31.6%]

[国語A]	児童数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	3,476	13.6/17	79.2 - 80.7
全国(公立)	255,180	13.9/17	81.4 - 81.7



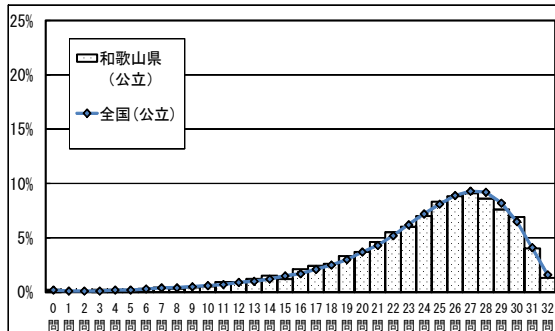
[国語B]	児童数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	3,476	5.7/11	50.9 - 52.9
全国(公立)	255,139	6.1/11	55.4 - 55.8



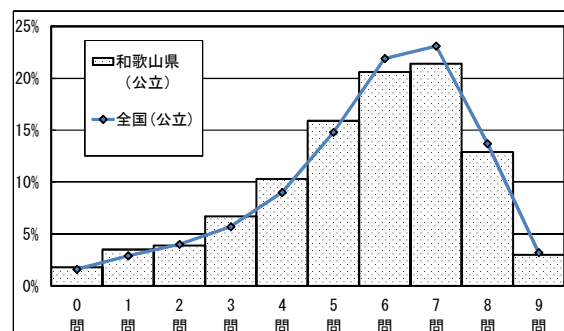
【中学校国語】

- 国語A（知識）の平均正答率(%)は(73.9-75.2)であった。
 ◇語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことについて、相当数の生徒ができてい
 る。[A7]三才 92.5%]
 ◆目的に応じて必要な情報を読み取ることに課題がある。[A6]二 37.3%]
- 国語B（活用）の平均正答率(%)は(61.0-62.5)であった。
 ◇文脈の中における語句の意味を捉えることについて、相当数の生徒ができてい
 る。[B2]一 83.0%]
 ◆相手の発言を注意して聞き、自分の考えを書くことに課題がある。[B1]三 18.8%]
 ◆物語の場面の展開を捉えることに課題がある。[B3]二 32.7%]

[国語A]	生徒数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	6,219	23.9/32	73.9 - 75.2
全国(公立)	424,157	24.0/32	75.0 - 75.2



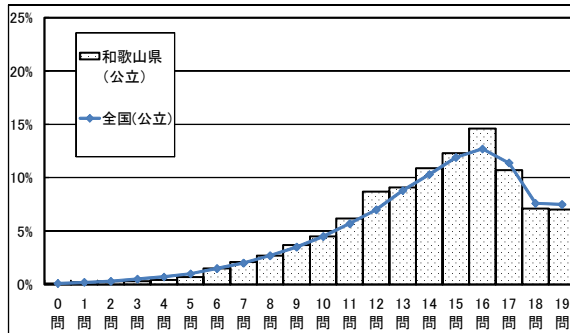
[国語B]	生徒数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	6,226	5.6/9	61.0 - 62.5
全国(公立)	424,258	5.7/9	63.2 - 63.4



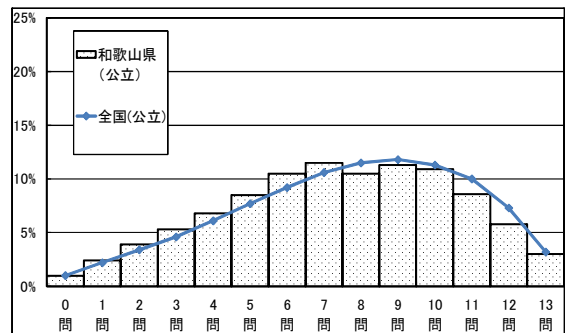
【小学校算数】

- 算数A（知識）の平均正答率(%)は(72.0－73.8)であった。
 ◇繰り上がりのある加法「(3位数)+(3位数)」の計算をすることについて、相当数の児童ができています。[A1](1) 96.3%
 ◆場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解することに課題がある。[A3](1) 33.6%
 ◆1に当たる大きさを求めるために、除法が用いられることを理解することに課題がある。[A3](2) 37.1%
- 算数B（活用）の平均正答率(%)は(55.8－57.7)であった。
 ◇支払い方の工夫を解釈し、おつりの金額を硬貨の種類と枚数に対応させることについて、相当数の児童ができています。[B1](1) 91.1%
 ◆表から適切な数値を取り出して割合の大小を判断し、その理由を言葉や式を用いて記述することに課題がある。[B5](3) 19.0%
 ◆必要な情報を用いて、指定された高さにすることができるかどうかを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述することに課題がある。[B2](2) 24.9%

[算数A]	児童数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	3,476	13.9/19	72.0 - 73.8
全国(公立)	255,186	13.9/19	73.1 - 73.5



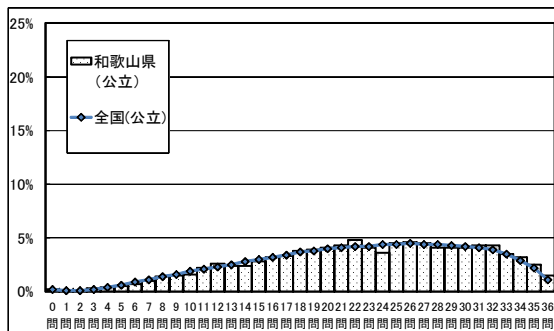
[算数B]	児童数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	3,476	7.4/13	55.8 - 57.7
全国(公立)	255,151	7.7/13	58.7 - 59.1



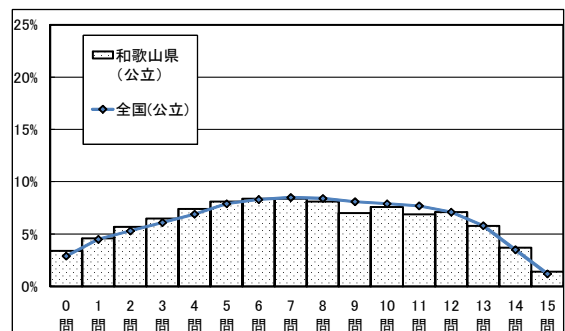
【中学校数学】

- 数学A（知識）の平均正答率(%)は(62.0－63.8)であった。
 ◇正の数と負の数の減法の計算については、相当数の生徒ができています。[A1](2) 93.1%
 ◆文字の値が整数のときに、式の値について考察することに課題がある。[A2](3) 35.5%
 ◆二元一次方程式の解とグラフの関係の理解に課題がある。[A13] 38.4%
- 数学B（活用）の平均正答率(%)は(47.4－49.7)であった。
 ◇作図の手順を理解し、作図によってできる図形の特徴を的確に捉えることについて、相当数の生徒ができています。[B4](1) 88.7%
 ◆軌道の長さの差を求める計算を解釈し、数学的な表現を用いて説明することに課題がある。[B1](2) 10.0%
 ◆図形の性質を数量の関係に着目して捉え直し、その特徴を的確に捉え、数学的に表現することに課題がある。[B6](2) 15.9%

[数学A]	生徒数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	6,239	22.6/36	62.0 - 63.8
全国(公立)	424,379	22.4/36	62.0 - 62.3



[数学B]	生徒数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間(%)
和歌山県(公立)	6,235	7.3/15	47.4 - 49.7
全国(公立)	424,373	7.4/15	49.2 - 49.5

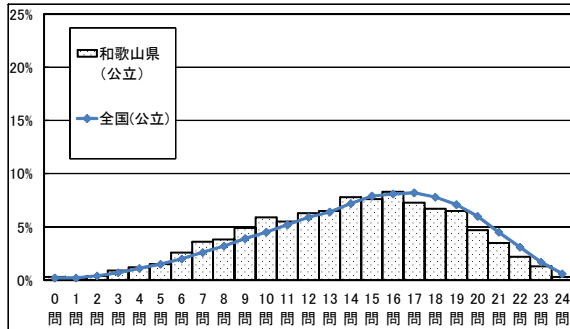


【小学校理科】

○理科の平均正答率(%)は(57.2－58.9)であった。

- ◇方位磁針の名称については、相当数の児童が理解できている。 [4](2) 89.0% 「知識」
- ◆天気の様子と気温の変化の関係についてデータを基に分析して、その理由を記述することに課題がある。 [4](5) 14.0% 「活用」
- ◆方位磁針の適切な操作方法の定着に課題がある。 [4](1) 26.1% 「知識」

[理科]	児童数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間 (%)
和歌山県(公立)	3,476	13.9/24	57.2 - 58.9
全国(公立)	254,825	14.6/24	60.8 - 61.1



【中学校理科】

○理科の平均正答率(%)は(48.9－50.8)であった。

- ◇「地層の連続性や成因を調べるために、断層の有無や地層に含まれている粒に着目する」という地層観察に関する技能を、相当数の生徒が身に付けている。「知識」 [3](1) 87.3%
- ◆抵抗の直列つなぎ、並列つなぎなどに関する知識を活用して、他者の実験方法を検討し改善して、正しい実験方法を説明することに課題がある。 2 6.1% 「活用」
- ◆地層などの知識を活用し、過去の火山活動が活発だった時期の回数についての他者の考察を検討し、根拠を示して改善した考察を説明することに課題がある。 3 9.8% 「活用」

[理科]	生徒数	平均正答数	平均正答率 95%信頼区間 (%)
和歌山県(公立)	6,252	13.0/26	48.9 - 50.8
全国(公立)	424,320	13.3/26	50.9 - 51.1

